

2022年(令和4年)1月オホーツク管内倒産集計

令和4年2月3日

株式会社 東亜リサーチ

北見市北6条西5丁目1番地

Tel (0157) 23 - 6288

Fax (0157) 24 - 1033

昨年引き続き1月発生ゼロ 静かな年明け迎える

2か月ぶりの月間発生ゼロ

■前月比	件数	2件減少(令和3年12月	2件)
	負債総額	1億4,082万円減少(" 1億4,082万円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	同数(令和3年1月	0件)
	負債総額	同数(" 0円)

令和4年1月の発生状況

令和4年1月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)の発生はゼロだった。前月と比較すると皆減となり、発生がなかった前年同期比では同数となった。

月間発生ゼロは2か月振りとなったほか、昨年が続いて1月の発生はゼロとなるなど今年に入っても抑制状態が続き、静かなスタートとなった。

過去5年間と今年1月の発生推移

過去5年間の1月の発生推移は【右・表】の通りで、発生件数は、いずれもゼロ件及び1件で推移しており、平均発生件数は0.6件。同負債総額は小規模倒産が中心のため、3,580万円。1月は平均発生件数が1件を下回るなど倒産の少ない月といえるが、前年同様に発生ゼロに止まり、抑制状態を維持した。

過去5年間と今年1月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
2017年	1件	2,800万円
2018年	0件	0円
2019年	1件	5,400万円
2020年	1件	9,700万円
2021年	0件	0円
2022年	0件	0円

今後の見通しと問題点

1月の倒産発生はゼロ件に止まり、昨年に続き静かな年明けとなったものの、新変異株「オミクロン株」の感染ペースが急激に拡大したため、まん延防止等重点措置が1月27日から2月20日までの期間で適用された。昨年秋から回復しつつあった経済活動が抑制されることは避けられない。こうしたなか原材料は高騰し、仕入単価は上昇しているものの、多くの企業が販売単価に転嫁できず、企業収益を圧迫している。

コロナ禍はまもなく3年目を迎えるなど長期化している一方、低水準で推移している管内企業倒産なのだが、政府の資金繰り支援によって抑えられてきた信用保証協会による代位弁済は、2021年4月から12月の管内累積件数を見ると前年の24件から37件と増加傾向を示しており、倒産増加への変化の兆しとも見える。すでに借入金上限に達している管内企業も多く、支援策効果が薄れていくなかで息切れする企業が増加する可能性があり、新年度に向けての動向が注目される。

